

EX LIBRIS

～図書館の本棚から～



近江八幡市立図書館

テーマ・・・コロナ時代を生き抜く

『逆ソクラテス』

伊坂 幸太郎／著(集英社)

NO IMAGE

小学生を主人公とした連作短編集です。表題作「逆ソクラテス」では、勉強も運動も苦手な冴えない少年を「コイツはだめだ」と決めつけてかかる担任教師に対し、その先入観をひっくり返そうと子どもたちが奮闘します。カンニング作戦から始まったその作戦は、

クラスメイトを巻き込み、思いもよらぬ結末を迎えます。

読んでいるとワクワク感があり冒険心がくすぐられる一方で、心に響く言葉がたくさん出てきます。同調することが良しとされる集団の中で、ある少年が放った言葉「僕は、そうは、思わない」もその一つで、そう言えることの大切さ、言えなくても思えることの大切さ、そして先入観を持つことの危うさを実感させられました。コロナに惑わされることが多いこんな時こそ、手に取っていただきたい一冊です(但田)

敵は、先入観！

『じょうぶな頭とかしこい体になるために』

五味 太郎／著（ブロンズ新社）

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

ブレイディ みかこ／著（新潮社）

生き方を問い直す

『これからの「正義」の話をしよう』

マイケル・サンデル／著（早川書房）

『塩狩峠』 三浦 綾子／著（新潮社）

他者によりそう

『天、共に在り』 中村 哲／著（NHK出版）

『戦争で死んだ兵士のこと』

小泉 吉宏／作（メディアファクトリー）

仕事を変える

『あなたのいるところが仕事場になる』

森本 登志男／著（大和書房）

『人を動かす』 D.カーネギー／著（新潮社）

免疫力を高める

『養生のヒント』 五木 寛之／著（KADOKAWA）

『免疫力が上がる食べ方』 浜内 千波／著（マガジハウス）

簡単！ステキに変身！

『大人のメイクレッスン』 浅香 純子／監修（ナツメ社）

『クローゼットのルール』 澤井 聖一／著（イクスルジ）

テーマ・・・ ワルい奴ら

『悪人』

吉田 修一／著（朝日新聞出版社）

NO IMAGE

殺人を犯した人間は、社会ではいわゆる凶悪犯として「悪人」扱いされるが、果たして本当に「悪人」なのか？そんな問いに、小説という形でまっこうから挑んだのが本書です。

物語は、北九州の人里離れた峠道で若い女性が殺害されるところから

始まります。犯人は祐一という若い土木作業員でした。なぜ彼は女性を殺害するに至ったのか、そして、出会い系サイトで知り合った光代という女性となぜ逃避行を続けることになったのか。様々な人物の視点から描かれ、そして最後は祐一を本気で愛した光代の言葉で幕を閉じます。女性に対して非道な扱いをした男が無罪で、結果的に死に至らしめてしまった祐一が有罪、というやるせない結果に、真の「悪人」は誰なのか、深く考えさせられた1冊です。（世古）

小説の中のワル

『地と骨』 梁 石日／著（幻冬舎）

『不夜城』 馳 星周／著（角川書店）

『悪医』 久坂部 羊／著（朝日新聞出版）

『緑の毒』 桐野 夏生／著（角川書店）

『わるいやつら』（上・下）松本 清張／著（新潮社）

『白夜行』 東野 圭吾／著（集英社）

『破門』 黒川 博行／著（KADOKAWA）

『赤い髪の女』 オルハン・パムク／著（早川書房）

歴史上の悪人・悪女 …と言われているけれど本当？

『悪女が生まれる時』 藤本 ひとみ／著（中央公論新社）

『残酷な王と悲しみの王妃』 1・2

中野 京子／著（集英社）

『ヒトラーという男』

ハラルト・シュテファン／著（講談社）

社会をゆるがした悪人たち …と言われているけれど真実は？

『突破者烈伝』 宮崎 学／著（筑摩書房）

『わたしが会った殺人者たち』 佐木 隆三／著（新潮社）

のぞいてみる？ だれの心にもひそむワル

『だんなデス・ノート』 死神／著（宝島）

ワルの心に染まらない処方箋

『まずは、あなたのコップを満たしましょう』

玉置 妙憂／著（飛鳥新社）

テーマ・・・ あの人が愛した食卓

『幸福な食卓』

瀬尾 まいこ／著（講談社）

NO IMAGE

主人公は佐和子という中学2年生の女の子。父親の自殺未遂とうショッキングな出来事が起こり、それがきっかけで母親は別居するなど、家族はそれぞれの道を歩み始めます。けれども一見バラバラな家族ですが、お互いを大切に思っていることに変わりはなく、おいしいものを家族のために作り、一緒に

食べることで繋がりを保っています。そして佐和子自身に訪れる人生で最大の危機を救ってくれるのも、やはり食べ物でした。佐和子を心配して、兄の彼女が作ってくれたのは、不格好な、でもとびきりおいしい焼きたてのシュークリーム。

食べることで人は生命を維持しますが、生きる力もくれる。そんな当たり前のことに気づかされました（世古）

あの人の食卓から

『池波正太郎の食卓』 佐藤 隆介／著（新潮社）

★食ることへの情熱を抱いた作家の個性豊かな食世界。

『魯山人の食卓』 北大路 魯山人／著（角川春樹事務所）

★新鮮に勝る美味なし 天才料理人の究極の献立。

『荒野の胃袋』 井上 荒野／著（潮出版社）

★おいしいものにまつわる50のショート・エッセイ。

素敵な女性はお料理上手

『高峰秀子のレシピ』 高峰 秀子／著（ハースト婦人画報社）

★料理は人となり。高峰秀子が、愛する夫のために作り続けた57のレシピとエッセイ。

『茨木のり子の献立帖』 茨木 のり子／著（平凡社）

★手間暇かけた趣味のいい暮らしぶりは今も新鮮。

おいしい小説のあとで

『アガサ・クリスティーの食卓』

北野 佐久子／著（婦人画報社）

★作品に登場した料理と著者自身の英国体験も織り込んだエッセイ。

『いしい人と、おいしい食卓』

筒井 ともみ著（講談社）

★著者の『食べる女』から。心と体を満たす恋めしのレシピ。

恋と料理と人生と

『太陽のパスタ、豆のスープ』 宮下 奈緒／著（集英社）

★婚約破棄された明日羽。失意のどん底の彼女に叔母のロッカは、やりたいことリスト作りを提案します。



EX LIBRIS

～図書館の本棚から～

発行 2020年7月

近江八幡図書館 ☎ 32-4090

安土図書館 ☎ 46-6479